

公立保育園における土曜拠点保育シミュレーション

モデル：平成 28 年 8 月 20 日（土）

拠点園：道下保育園

園名	3歳未満 児童数（人）	3歳以上 児童数（人）	必要保育士数 （人）	必要調理員数 （人）
道下	3	9	2	1
青島	3	13	2	1
経田	2	5	2	1
住吉	0	4	2	1
片貝	1	2	2	1
松倉	2	0	2	1
西布施	1	0	2	1
野方	2	4	2	1
合計	14	37	16	8
児童数に対して必要とされる 保育士・調理員数（人） ※保育士配置基準 0歳児 3：1 1・2歳児 6：1 3歳児 20：1 4・5歳児 30：1			5	2
園長を含めた正規の保育士・調理員（用務員を含む）数（人）		道下 7 青島 7 経田 6 住吉 4 片貝 3 松倉 3 西布施 3 野方 2 計 35	道下 （メフオス） 青島 （メフオス） 経田 3 住吉 2 片貝 2 松倉 2 西布施 2 野方 2 計 13+メフオス	

※片貝・松倉・西布施の土曜保育実施は、月1～2回程度

公立保育園における土曜拠点保育のメリット・デメリット

○メリット

1. 保育士等の負担軽減

- ・利用する園児が少なくても、最低2人の保育士と1人の調理員の配置が求められるが、必要とされる保育士（16人→5人）・調理員（8人→2人）数が大幅に減となり、臨時保育士の土曜勤務は不要となる。
- ・職員は出勤回数が減り、指定休（原則、同一週の平日午後）を取りやすい

2. 運営経費の削減

- ・開園数が大幅に減（8園→1園）

3. 保育の充実（園児及び保育士）

- ・園児（特に小規模園）は、大きな集団で遊ぶことで刺激が得られる。
- ・保育士は、拠点園の環境を見たり、いろんな保育士に接することで保育の幅が広がる。

4. その他

- ・利用者数等に変動があっても、臨機応変（保育士配置・給食）に対応できる。
- ・本当に必要な保護者が利用するようになる。

○デメリット

1. 保護者等の負担増

- ・午睡用の布団や着替え等の持ち運び（入所している園⇒拠点園）が必要
- ・勤務場所等から遠くなるなど、保護者が不便を感じる。

2. 園児の不安

- ・園児（特に3歳未満児）は、通常と異なる環境や保育士に戸惑いや不安を感じる。

3. 保育士の負担

- ・個別に配慮の必要な園児の申し送りを慎重に行う必要がある。

4. その他

- ・アレルギー対応へ十分注意が必要
- ・駐車場が少なく、園から少し距離がある。
- ・管理、運営、防犯対策、安全面など拠点園の負担が大きい。
- ・全園を把握する必要があるため、事前の利用人数把握・職員配置・割り振り等に時間がかかる。

○その他

- ・保護者が拠点保育を不便と感じるかもしれないが、地理的に市の中心部に位置する道下保育園であれば、理解が得やすいのではないかと。